

学習指導要領の 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開
理解と具現化 する中で、「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」の実現を図り、子供に「生きる力」を育むことを目指す。

長崎県教育方針並びに長崎市教育方針に則り、特に長崎市第五次総合計画「まちづくりの方針」GI+BIの具現化を目指す

長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます

被爆の実相を継承します

G1-1 「確かな学力」の向上を図ります

G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります

B1-2 平和教育・学習の充実を図ります

G1-2 健やかな心と体を育成します

G1-4 安全・安心に学べる教育環境を整備します

B1-3 多様な方法で継承の取組みを推進します

学校教育目標

目指す学校の姿

目指す子供の姿

(共生・平和希求)

いたわり はげます 平和な学校 ～「平和は城山から」～

学校の合言葉「Peace (ピース) 飛び交う、楽しい学校をつくろう」

自律: みんなが仲間のために動き、幸せいっぱいになるために、例示を基に考え、判断し、決定し、自ら行動する

対話: 仲間と共に生きるために、仲間の考えのよさを認め、対話を通して仲間と納得解を出す

選択: 問題の解決の仕方を学ぶために、仲間のよいところや学んだことからよりよい方法を選択し、情報や技術を活用して、まずやってみる

城山小の約束

しろ・や・まだ・い・す・き ～みんなが気持ちよく、安心できる言葉づかいと行動をする～

し: しっかり返事 元気にあいさつ、ろ: 廊下はだまって 右側歩行、 や: やる気まんまん 進んで発表、 ま: 待たせずだまって 静かに集合
だ: だれでもなかよし みんな友達、い: いっぱい食べよう まごころ給食、す: スリッパならべて 心もスッカリ、き: きれいにだまって ぴかぴか城山

「子供が」自己肯定感、集団の所属感の高まりから充実感を味わうために、「教師が」「やればできる! できる!」と
励ましつつ、例示をして「それは、やらねば始まらない」と背中を押し、結果を受けて褒めることを基本姿勢とする

予測が困難な時代と到来と言われる2030年を生き抜くための力「自律」「対話」「選択」を高めることが
本校教育活動のすべてがねらうところ。

これまでの日本型教育の実践とICTとを最適に組み
合わせていくことが大切であり、学校教育の基盤的な
道具としてICT機器の効果的な活用を進めていく。

目指す学校の姿を達成目標として、「何のために
行うのか」「目標の実現に向かっていくのか」を
常に考えて、全てのベクトルをそれに向けていく。

本校教育活動を支える基盤づくり

【学校全体で支持的風土の醸成】

活動時の雰囲気

○肯定的な人間関係、情緒的開放 ○深い児童理解 ○人を馬鹿にする言動 やごまかそうとする態度はしっかりと指導する。

活動時の勢い

○マネジメント

- ・子どもの考えを聴く・認めることを基本とし、必要に応じて意図的・計画的に挙手や指名での発言を促す。
- ・可能な限り、本物に触れることができる場を仕組み、子供の驚き(「へえ、そうか、わかった」と子供の歓声を)を大切にする。

温かく、柔らかに、シンプルに学習規律

- 授業開始・終了時のあいさつの言葉、友達の発表への返しの言葉などの定型句を見直す。(伝達型学習からの転換)
- 「むずかしいな、わからないことがある」とつぶやくことができるような約束事を工夫する。

学級・学年・代表委員会等で話し合う場の確保

- 禁止事項を多用せず、子供に話し合わせて約束事を決めて、それを守るよう仕向けていく。(自分たちで決めたことは守る)

【指導の最小単位を学年と考え、同学年で学年全ての子供を育てる(共創して協働する)】

同学年会での先を見通した打ち合わせを

- 子供に関すること、指導上の悩み、指導の工夫・教材の工夫などの共有化を図る。

【学力向上と体力向上を両輪として】(授業改善は必須の取組。互いに授業を見合う授業参観月間などを設定したい)

子供が楽しさを感じる活動のアイデアを出し合う

- 体力向上は学力向上の土台⇒校内のプレイパーク化 ○体力向上⇒気力・やる気の向上・心の安定⇒粘り強さ・意欲の向上⇒学力向上

城山小学校の教職員として

【「いいね行動」が表れるように、正の強化をねらった指導を基本として】

同学年で共通理解を図り、方法を工夫する

- ◎「いいね行動」をしたときに「すぐに」褒める、ほんの少しでもできたら褒める。(25%ルール)
- 「よくないね行動」をしたときこそ相談をして対応の工夫をする。
- 「あぶないよ行動」をしたときは、やめるように指示をする。(小学校の子供の発達の段階に応じて、ならぬことはならぬ!)

職員室の支持的風土の醸成(不祥事発生をともに防ぐことにつながる)、協力して、安全・安心については確実に配慮する

- 「すべての子供が」をキーワードとして、互いに思いを語り合い、「ねらいは何か」「なぜそれを行うのか」に立ち戻り考えをめぐらせることができるよう、アイデアを出し合う(仲間との合意形成を図り、目指す学校の姿の達成に向けた取組を共に行う)
- 生活科や総合的な学習、特別活動を中心としながら、場面を捉えて探究的な学習を仕組み、本物に触れる機会を計画的につくり、学力・体力向上、キャリア教育につなげていく。(子供が夢や憧れを選択できるように仕向けていく)

【働き方改革の具現化を図る】(視点は、やめる、簡単に、まねをして、してもらう、一緒に)

超過勤務の縮減

- 仕事の見通しを持ち、計画的にメリハリをつけて業務に取り組む。(協力・分担しながら)
- ねらいを確認しつつ、質を維持しながら、効率的に実施できる方法を企画し、できるものから改善していく。

ICTの活用

- 学習指導はもちろんのこと、校務にも積極的に取り入れていく。(学習での効果的活用、持ち帰りによる宿題の設定、C4thの活用、Googleの活用)
- Qubena(キュービナ)・MEXTBT(メグビット)の積極的活用推進。(学びの個別最適化につながる家庭学習や習熟学習の工夫)

子供たちの「いいね行動(Peace)のできればえ
見える化できる「Peaceポイント付与」などの取組
を企画委員会の発案として考えていきたい。

1 学校経営方針

今の子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。このような状況の中、仲間の考えの良さや多くの情報の取捨選択を行いながら、仲間との考えの違いを解決し、よりよい方法を選択し、自ら行動できる子供を育てていくことが必要であると考えます。また、この営みは、仲間と一緒に一つのことに向かって活動してねらいを達成するために、多様性や互いの考えのよさを認めながら折り合いを付けて合意形成を図っていく力、共生に関する資質・能力となり、意見の対立からの争いをなくし、平和な世の中づくりに寄与する姿となっていくと考えられる。このことは、学習指導要領の理念としても示されており、まさに、「平和は城山から」と言われる本校の子供たちに求められる姿であると考えられる。出発点は学習指導要領の具現化と指導内容の習得である。

本校は、被爆の経験から、平和に関する教育を継続していく責務があるだろう。これまでも、そのことを踏まえて、本校の被爆の状況や歴史、長年引き継がれてきた平和を願う心、ペースナビなど、直接的な平和学習に取り組み、平和を希求する心情を高めてきている。これを継続しながらも、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて、対話や体験、実践的な活動等を通して、生涯にわたって実践していく力を高める取組を加えていきたい。

この取組に向けては、これまでの日本型教育の実践とICTとを最適に組み合わせて令和の日本型教育に挑んでいくことが大切であり、学校教育の基盤的な道具として ICT 機器の効果的な活用を進めていきたい。(別紙2 予測困難な時代を生き抜く子供を育てる 参照)

そこで、「やればできる！できる！」と励ましつつ、教師が子供に例示をして活動を選択させて「それは、やらねば始まらない」と背中を押し、結果を受けて褒めることを基本姿勢とし、子供も大人も自己肯定感、集団の所属感が高まり、充実感を味わうことができる「Peace（ピース）飛び交う、日本一楽しい学校づくり」を目指していく。

2 出発点は、国、県、市の考えをしっかりと踏まえることから

予測が困難な時代の到来が予想される状況の中、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指している学習指導要領にのっとり同解説をよりどころとして教育活動を推進していく。授業改善は必須である。

また、長崎県・長崎市教育方針及び長崎市第五次総合計画「まちづくりの方針【G1+B1】」を踏まえ、その具現化に努め、全国共通に身に付けるべき資質・能力をしっかりと身に付けさせたい。これらのことに立ち戻り、内容を熟読、取組を熟考して、体力向上、学力向上、道徳的心情と態度の向上、国際理解と平和を希求する実践的態度の向上を図っていく。

長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます

G1-1 「確かな学力」の向上を図ります G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります
G1-2 健やかな心と体を育成します G1-4 安全・安心に学べる教育環境を整備します

被爆の実相を継承します

B1-2 平和教育・学習の充実を図ります
B1-3 多様な方法で継承の取組を推進します

3 学校教育目標及び学校の合言葉（目指す学校の姿）

（令和5年度 長崎市立城山小学校 学校経営グランドデザイン 参照）

学校の合言葉「Peace（ピース）飛び交う、楽しい学校をつくろう」

【学校教育目標】

いたわり はげます 平和な学校 ～「平和は城山から」～

目指す学校の姿を、子供、教職員、保護者、地域が共有し、誰もが口にできるように合言葉としたい。目指す学校の姿を達成目標として、「何のために行うのか」「目標の実現に向かっているのか」を常に考えて、全てのベクトルをそれに向けていく。

「Peace（ピース）」とは、第一に「平和」を意味する。

「平和は城山から」と発信する学校として、まずは、子供たち同士、子供と教職員、教職員同士が、温かい、支持的風土が醸成された学校でありたいと考えている。「Peace（ピース）＝平和」に、互いに、よいところを認め合う言葉や励ましい合う言葉、そのようなつながりが高まる実践的な姿・取組を加えて、総じてPeace（ピース）と表した。

「飛び交う」とは、Peace（ピース）を表す言動や取組がたくさん見られるようになることを期待している。子供たち同士、子供と教職員、教職員同士で、「いいね。」「やったね。」「すごいね。」「ナイス!」など相手を認める言葉や、「ドンマイ!」「次がんばろう!」など、相手が困っていたり失敗したりした時に励ます言葉などが、様々な場面で表出しているイメージを表している。これは、平和を愛する学校を象徴する人の姿として目指したいことであるとともに、コミュニケーション能力や表現力の向上に結び付けたい。長崎市が推進する「あ・は・は運動も」同様である。

「楽しい学校」とは、楽しい学校行事や集会活動等のイベントの実施はもちろんであるが、「単に楽しい活動を行う」ことだけでなく、校内全体に支持的風土が醸成され「全ての子供」が安心して活動ができる学校、仲間や先生と一緒にいることが楽しみとなる学校、登校前日に翌日の学校での生活にワクワク感・ドキドキ感を持つことができる学校などの姿をイメージしている。

子供ファーストの立ち位置で、厳しい指導によって子供を追い込むこととならぬよう、また、職員間も気持ちよく同じ方向を向くことができるよう互いに留意するとともに、保護者や地域の方にも理解と協力を求め、「Peace（ピース）飛び交う、楽しい学校をつくろう」を合言葉に参画していただきたい。

4 目指す子供の姿

自律：みんなが仲間のために動き、幸せいっぱいになるために、例示を基に考え、判断し、決定し、自ら行動することができる。

対話：仲間と共に生きるために、仲間の考えのよさを認め、対話を通して仲間と納得解を出すことができる。

選択：問題の解決の仕方を学ぶために、仲間のよいところや学んだことからよりよい方法を選択し、情報や技術を活用して、まずやってみることができる。

本校の特殊性を踏まえて合意形成力と共生に関する資質・能力を高めるために対話を重視しながら、子供の10年後、大人と成長したときに、「自律できる人」となることが常に向かう方向である。その際、教師の例示から選択する場を学年の発達の段階に応じて設定しながら課題解決の仕方を学ぶことができるようにしていきたい。

また、校務分掌等における企画、学年の取組等も、「自律」「対話」「選択」と関連したねらいとなっているか、それに向かう方法となっているかを考え、各人やチームの持ち味を生かして工夫していただきたい。

(1) 子供たちへの示し（学年の発達の段階に応じて言葉を言い換えて）

- 子供たちが卒業するときに身に付けてほしい力は、「自律」「対話」「選択」3つであること、それぞれでできるようになってほしいこと。
- その力を高めるためには、「感じて考えて行動すること」が必要であり、互いに認め合い、励まし合うなど、皆がそのような行動をしていくことで、合言葉にある「楽しい学校」となっていくこと。
- 全市的に取り組む「あ・は・は運動」もそのために守る必要があること。

(2) 城山小の約束＝「みんなが気持ちよく、安心できる言葉遣いと行動をする」

- これは、平和な世の中づくりに向けて「皆が仲良くすること」の原点。このような言動をできるかどうかを評価する場面が「しろやま 大好き」と捉え、子供にも指導していく。

(3) 学年目標について

- (1)(2)を踏まえ、どんな行動を行う学年となるのか、を話し合っ。学級目標を立てる場合は、その学年目標の達成と連動するように。

5 目指す子供の姿と関連した学習指導要領に示された資質・能力

ひと学年で全部を身に付けさせようとするのではなく、子供の実態や学年の発達の段階に応じて行事や学期を考慮して、同学年やチームで共通理解を図って、子供の力が高まるよう工夫していく。

【自律】

- ①自ら対象に働きかけ、見通しをもって計画的に取り組む力。
- ②自らの言動を客観的にみて理解する力。(メタ認知能力)
- ③自らの感情と言動をコントロールする力。(セルフコントロール)

【対話】

- ④対話を通して、仲間との考え方の違いや良い言動を認め、共感的に理解する力。
(共感的思考、コミュニケーションスキル)
- ⑤共通の目的の実現のために、仲間と協働しようとする態度。
(⇒自己肯定感・集団への所属感の向上)

【選択】

- ⑥身に付けた力の活用による確かな学力とICT活用能力。(効果的な活用と適宜性)
- ⑦教師の例示を基に、自己決定し、自ら学び振り返り、次につなげる力(自立性)
- ⑧教師の例示から自ら感じて行動し、粘り強く取り組む態度。

6 本校教育活動を支える基盤づくり

【学校全体で支持的風土の醸成】

①安心して活動できる雰囲気づくり（いじめの早期発見、継続的な対応を）

- 肯定的な人間関係、情緒的開放 ○深い児童理解（子供の言動の背景の把握）
⇒人を馬鹿にする言動やごまかそうとする態度はしっかりと指導する。

②活動時の勢い

○マネジメント

- ・つぶやきを聴く・認めることを基本とする、必要に応じて意図的・計画的に挙手や指名での発言を促す。
- ・可能な限り、本物に触れることができる場を仕組み、子供の驚きを（「へえ、そうか、わかった」と子供の歓声が聞かれる活動を）大切にする。

③温かく、柔らかく、シンプルな学習規律（しっとりとした学年・学級の雰囲気）

- 授業開始・終了時のあいさつの言葉、友達の発表への返しの言葉などの定型句の見直し。（伝達型学習からの転換）
- 「むずかしいな、わからないことがある、困ってる、悩んでる」などをつぶやくことができる約束事を工夫する。

④学級・学年・代表委員会等で話し合う場の確保

- 禁止事項を多用せず、「なぜ、〇〇するのか」目標達成に向けて「どうすればよいのか」などを考えさせ、実行し、そのできばえからまた考えるサイクルを大切にしたい。

【指導の最小単位を学年と考え、同学年で学年全ての子供を育てる（共創して協働する）】

⑤同学年会での先を見通した打合せをしっかりと行う。

- 子供に関すること、指導上の悩み、指導の工夫・教材の工夫などの共有化を図る。

【学力向上と体力向上を両輪として】（「わかった」「できた」「楽しい」の実感を）

⑥学校のプレイパーク化の検討・お試しを行う。

- 体力向上は、学力向上の土台。楽しみながら結果として体力が高まる取組のアイデアを出し合い、全校的に取り組んでいきたい。

⑦互いに授業を見合う授業参観月間設定の検討。

⑧体力調査、学力調査結果の分析から、全職員で強みと弱みを踏まえて対策を展開。

7 城山小学校の教職員としての取組

【「いいね行動」が表れるように、正の強化をねらった指導を基本として】

（１）同学年で共通理解を図り、方法を工夫する

- ①「いいね行動」をしたときに「すぐに」褒める、ほんの少しでもできたら褒める。
- ②「よくないね行動」をしたときこそ相談をして対応の工夫をする。
- ③「あぶないよ行動」をしたときは、やめるように指示をする。（小学校の子供の発達の段階に応じて、ならぬことはならぬ！）

（２）職員室の支持的風土の醸成（不祥事発生をともに防ぐことにつながる）、協力して、安全・安心に確実に配慮する

- ④「すべての子供が」をキーワードとして、互いに思いを語り合い、「ねらいは何か」「なぜそれを行うのか」に立ち戻り考えをめぐらせることができるよう、アイデアを出し合う。（仲間との合意形成を図り、目指す学校の姿の達成に向けた取組を共に行う）

【働き方改革の具現化を図る】

（１）超過勤務の縮減（週休日も含め、タイム管理を確実に行う。常態化しないことが大切）

- ①仕事の見通しを持ち、計画的にメリハリをつけて業務に取り組む。（協力・分担しながら）
- ②ねらいを確認しつつ、質を維持しながら、効率的に実施できる方法を企画、できるものから改善していく

○視点は、やめる、簡単に、まねをして、してもらう、一緒に。

○自分のルーティーンや行事のルーティーンなど、当たり前として行ってきたことを再度見直す。

- ・月平均 30 時間（上限 45 時間）、年間 360 時間以内を目標に。
前日に翌日の退庁時間の目安を立てる。
⇒段取り力の向上を図っていく。
- ・自主的リフレッシュ休暇取得を。（年休取得月 1 日の促進）
⇒学校行事や学習指導等に配慮しながら、全員で協力を！
- ・計画案等の起案は、午前中に行う心がけを。（緊急時は相談を）

（２）ICT の活用

- ①学習指導はもちろんのこと、校務にも積極的に取り入れていく。
⇒学習での効果的活用、持ち帰りによる宿題の設定、C4th の活用、Google の活用
- ②Qubena（キュービナ）・MEXTBT（メグビット）の積極的活用推進。
⇒学びの個別最適化につながる家庭学習や習熟学習の工夫

（３）服務規律の徹底（週休日は特に、に意識して過ごす項目を決めて）

- ①「プラス１推進運動」による不祥事を出さない職場環境の構築
 - 飲酒上の不祥事防止
 - 交通法規の遵守・交通事故防止
 - 刑法違反・迷惑防止条例違反の防止
 - SNS 等への投稿内容等の精選
 - 体罰、暴言の防止（アンガーマネジメント）
 - ハラスメントの防止
- ⇒心と性に関するチェックシート、自己温度度チェックの実施による自己理解

【教育環境の整備】

- （１）校内美化 ⇒安全確保のための教室配備、通学路。
- （２）掲示教育 ⇒子供の学びの様子、伸びが表れる掲示の工夫。
⇒余剰の TV モニタの活用等による省力化の工夫。
- （３）職員の姿勢 ⇒子供の憧れとなるべき言動。
⇒職員室の整理整頓（見せる整理整頓、見せない整理整頓）
 - ・ 机上、ロッカーの上・棚、文書棚にの整理整頓
 - ・パソコンのモニターの位置を配慮（互いの顔が見えるように）

【キャリア教育の充実】（子供が夢・憧れを持つことができる体験や活動を）

- （１）キャリア教育全体計画の共通理解
- （２）国が示す 4 項目に「長崎 LOVERS 育成プログラム」2 つの視点を加えた 6 つの力を意識して活動を仕組んでいく。